



書評

[評者]

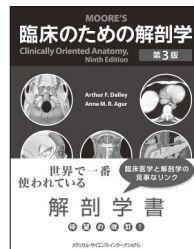
峯 真司

順天堂大学医学部附属順天堂
医院食道・胃外科

臨床のための解剖学 第3版

佐藤 達夫, 坂井 建雄 監訳

●A4変 頁1168 2024年3月
定価: 15,950円(本体14,500円+税10%)
[ISBN 978-4-8157-3095-6] MEDSi 刊



『臨床のための解剖学第3版』が佐藤達夫先生、坂井建雄先生の監訳のもとメディカル・サイエンス・インターナショナルから発刊された。原書は『Moore's Clinically Oriented Anatomy, Ninth Edition』であり、Wolters Kluwer社から2023年に出版されている。現在世界の多くの国で翻訳され、最も使われている解剖学書ということである。

本書を手にとってまずわかるのはその分量であり、1,000頁以上の大作となっている。中を見ると慣れ親しんだ写実的な解剖図以外にもさまざまな図とともに臨床的な説明がわかりやすくなされており、視覚的に記憶が定着しやすい内容となっている。図だけでなくCT画像やX線画像、MRI画像、超音波画像も豊富に掲載されている。また、混乱しやすい箇所(神経、筋肉、血管、骨などに付随した各々の説明)は表にまとめて整理されている。似た名称をもつ構造物の個々の機能を記憶することはしばしば困難であるが、この表立てのおかげで、理解や記憶の定着が確実になるのではないかと。

本書の特徴は何といっても臨床関連事項がまとまった黄色のボックス(「クリニカルボックス」と呼ぶようだ)の分量と内容にある。昨今の解剖学の他の教科書においても臨床解剖に注力していると思われるが、本書はこの臨床関連事項をまとめたクリニカルボックスの量と内容が他を圧倒している。

そのために世界で最も使われている解剖学書として広く読まれているのだと思う。ややもすれば解剖学の勉強は骨や筋肉、神経、血管などの名前を覚えるだけの単調な作業になりかねないが、本書のクリニカルボックスは、各項目の最後にその領域疾患と関連する解剖学的事項が豊富な写真や図とともに解説されており、非常に興味深く読み進めることができる。このクリニカルボックスを拾い読みするだけでも臨床に即した解剖学的知識を深めることができる。また、このクリニカルボックスに引き続きその項目をまとめた「要点」というコラムがある。解剖学的重要項目についてコンパクトにまとまっていて、知識の整理に役立つ。さらに、8個と数は少ないものの、動画による説明が視聴できる。それぞれの動画では、病態の解剖学的な理解をもとに臨床関連事項について説明しており、英語の音声ではあるがわかりやすい内容となっている。

分量があるため通して読むのはかなりの気合が必要になるが、前述したように図、写真、表、クリニカルボックス、要点だけでも十分に勉強になるうえ、すでに医師として働いている我々にとっても知識の確認や詳しくない領域の解剖を再度勉強するのに非常に役立つ1冊となっている。持ち運びには不便であるが、自分の書棚に揃えておきたい1冊である。